

# 社会学(通信教育部)

## 授業のねらい

考古学に対比させた造語として「考現学」という用語がある。考古学は地層を掘り、出土されたものをもとに古きを考察するものであるが、考現学は「現代社会」という地層から「人間関係」という出土品を得る。そこに、ゴッドハンドは不要である。

ゴッドハンドの代わりに必要とされる知識・技術として、「社会学」的発想を身に付けて欲しい。

## 授業の計画

(前期)

「人間関係」発掘のための基礎知識・技術を身につける。そのために、「社会」や「人間」の法則性を知る必要がある。我々は「社会」とのかかわりの中で「人間らしさ」を身に付けてきたため、「社会」とのかかわりを拒否してしまうと、自分を「人間」以外の生物に変えてしまうおそれがある。まずは自分が「社会」を理解した「人間」となる必要もあるだろう。

(後期)

この講座は「考現学」ではなく「社会学」である。社会学は、「考現」にこだわったり「考古」を否定したりするものではない。現在と過去、そして未来を広く展望するのである。そこで後期は、どの時代・地域でも普遍的に支配する「人間関係」の法則性を主として解説していくことにしたい。その法則性を知ることによって、「現代社会」を特殊か否かを見る目を養うことが出来るようになるのである。

**教科書** 服部慶亘著『ストレス・スパイラル—悩める時代の社会学』人間の科学社

**参考書(必携)** 『人間社会の理論と構造』夏刈康男(ほか)著 学文社 2,500円(本体)

## 成績・評価

講義内容を単なる「理論」として学ぶ学生よりも、「実践」を伴うものとして積極的に吸収しようとする意欲のある学生の参加を期待する。また、極端なまでに(理由もなく)出席状況の悪い者には単位認定しない。評価は終講試験と平常点で行う。